

文化財関係研修の実施

発掘技術者研修「一般課程」

今年の「一般研修」は、例年よりも10日ほど開始を早め、6月12日から7月17日の日程で実施しました。考古学調査の経験が十分でない埋蔵文化財担当職員に対する研修であり、本州・四国・九州から総勢20名の研修生が参加しました。考古学の方法論、各時代考古学の概説、文化財及び文化財担当者の法的基盤等に関する基礎知識の習得のほか、最も基本的な考古学遺物の観察・実測の習得に力点を置いて、例年よりも多くの時間を割き、個人指導も採り入れました。

研修生の評判は概ねよかったですのですが、とくに好評だったのは、遺物実測実習と臨地講義・飛鳥藤原地区の遺跡見学です。一方、今後の研修に生かすべきいろいろな要望もありましたが、中でも、彼らが

帰ったあと 従事しなければならない発掘調査に関する
実地研修を望む声が多くあります。例年出される
要望であり、関係者はそろそろ対応を考えねばなら
ない時期にきていると認識しています。